

子どもが話したくなる聞き方

わが子がつらい思いをしている時、親には真っ先に話してほしいものです。
嬉しいこともつらいことも、どんなことでも話してくれる子に育てるには、ちょっとしたコツが必要です。
今日は、『子どもが話したくなる聞き方』について練習してみましょう。

1. 子どもが困った顔をして突然こんなことを言ってきました。こんな時、どう話を聞く？

三者面談の前日に突然、「進路希望調査を勝手に書いて出したので、明日学校へ行きたくない」と言ってきました。

こんな時、あなたはどうやって子どもの話を聞きますか？ 2つのタイプをやってみましょう。
(親役と子ども役を交替して、両方のタイプとも、子どもの気持ちを体験してみましょう。)

〔タイプ1〕の聞き方

今後同じ失敗を繰り返さないように、大事なことは
親と相談してから決めることを厳しく諭す。



〔タイプ2〕の聞き方

うなずいたり相づちを打ったりしながら子どもの話を
しっかり聞いた後、今からできることを一緒に考える。
(聞き手から一緒に考えることを提案する。)



2. 「子育てで最近ちょっと気になること」について、お互いに話を聞きましょう。

【聞き方のポイント】

〈話の前半〉 ☆しっかり聴く。

- ・うなずいたり相づちを打ったりして、しっかり相手の話を聞く。
- ・聞き手は、なるべく話さない。(必要な質問は最小限度に)

〈話の後半〉 ☆一緒に考える。

- ・これからどうしたらいいか、一緒に考える。(聞き手から解決策を一緒に考えようと提案)
- ・「〇〇は、どうしたいと思っているの？」等、話し手の考えを先に聞く。
- ・「もし私が〇〇だったら、～するかも」の言い方で、自分の考えを押し付けずに話す。